



松戸の里やまが目指すもの

松戸里やま応援団 藤田 隆

松戸市の樹林地は20年以上前から里やまボランティアが15の森で保全活動を進めています。ボランティア自身の思いで森の活動を続けることはできますが、地権者の状況変化で事態が急激に変わることがあります。

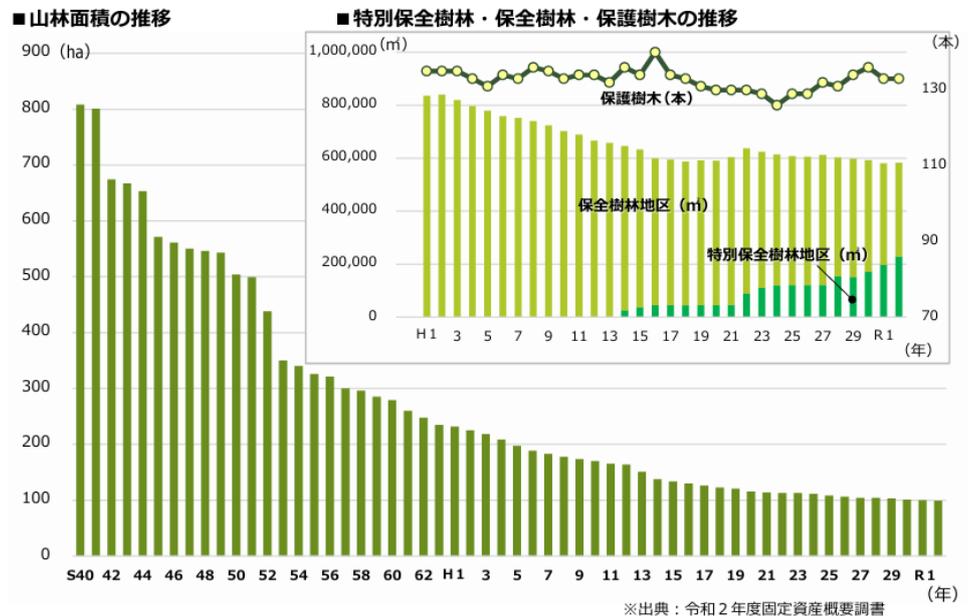
3年前、市内の南部、秋山の森が2023年5月に森の活動がストップしました。秋山の森は松戸里やま応援団全体で保全活動を14年間続けていました。活動を始めた頃、若い子どもを持つ子育て世代の女性が森で遊ばせたいと申し出てきました。Save The Green@ Akiyama (以下、STGA)として、子どもたち向けにタケノコ掘り、絵本の読みきかせ、木の葉集め、ピザ作り、巻き巻きパン焼きなどのプログラムを行っていました。遊びや作業が終了すると、子どもたちを交えて、枝のかたづけや落ち葉掃きで、森への恩返しをすることになっていました。子育て世代が森を整備するボランティアとともに活動していたのです。こうした世代を超えた活動はみどりと市民をつなぐ接点になっていたのだと思います。その活動場所がなくなったのはボランティアをはじめ子育て世代の方たちにとって少なからずショックでありました。

ちょうど同じ年の10月には市民と接点を持ち、ぷらっと出かけてこられるような、みんなの森を作ってはどうかと始まったのが囲いやまの森をフィールドとする「ぷらっとみんなの森」(創設時はぷらっと子どもの森)です。この森は里やまボランティア入門講座の第二期の修了生たちが活動する森で、月3回ボランティア活動を行っています。これに加

え毎月第二日曜日に森を開放し、備え付けのブランコ、木登り、的当て、森探検などや、クラフトワークで自由に遊んでもらい、成果物は持って帰ることができる空間を提供することを目的としました。

松戸の里やま応援団は、毎年5月の里山の日(千葉県は5月18日)に合わせて、森を一斉に公開するオープンフォレストを行っています。18の森(関さんの森、溜ノ上の森、根木内歴史公園を含む)で、様々な取り組みを行って、丸一日遊ぶことができます。

「ぷらっとみんなの森」はオープンフォレストとは趣が異なり、ボランティアの大人は見守り係です。森をどのように楽しむかは個人に任せるというスタイルを取りました。すると竹の半切を使って線路のように並べて竹線路をつくり裸足で渡り始めました。その一方で大小の葉を集めて「ままごと」を始める。あるいは葉を組み合わせたクラフト作品を竹と麻ひもで作った森の掲示板に飾り完成させるなど創意工夫をこらしていることに気



樹林地の減少傾向(「松戸市みどりの基本計画」2022.3より)

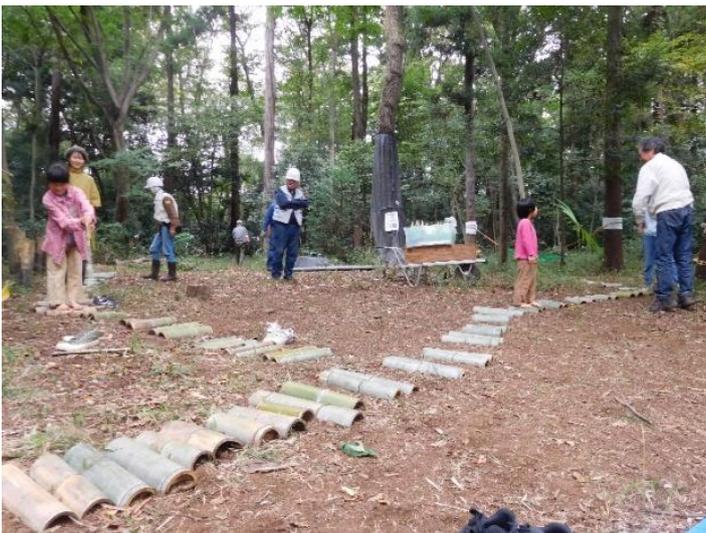
づきました。工夫には大人のちょっとしたヒントが必要な時もありますが、そのヒントが大きく花開くことも多いと感じます。

こうした様々な試みは「松戸市みどりの基本計画」(以下、基本計画)のフォレスト・マネジメントの仕組みづくりのうちの「里山のみどりの利活用」に位置付けているものです。

2022年3月に策定した「基本計画」では、「市内に残された森を可能な限り保全し、森の効用・機能を発揮させることで森の存在を身近なものにしていく」その仕組みを再構築するものとしてフォレスト・マネジメントを打ち出しています。秋山の森の活動がストップする一年前に「基本計画」が改訂され、フォレスト・マネジメントの考え方を明確にしましたが、樹林地の存続の危機が間近に迫り、緊迫感を感じさせられました。

身近に感じている樹林地が無くならないようにするためにはどうすればよいのかという命題に対する明快な処方箋を見つけるのは困難な課題だと思われませんが、「基本計画」では市内に残された森を保全し、森の効用・効能を発揮させることで森の存在をより身近なものにしていく。そのため、フォレスト・マネジメントで樹林地を守る方策と戦略を打つという並々ならぬ決意が感じられます。里山ボランティアが活動する森は、オープンフォレスト in 松戸、幼・保育園生や小学校の環境教育の場として森を公開しています。保全の優先度が高い森だと言えます。森の利活用や新たな価値の創造について検討し、森のソフト利用を充実させ、みどりの機能発揮とみどりのあるライフスタイルに寄与していくことが森を守り続ける戦略的考え方になると思います。

そのために、行政にお任せする部分として、地権者が数量的に表した樹林地台帳の整備、保全のための評価システム、管理支援の仕組み、新たな樹林地の利活用の創造、保全のための予算措置が必要とされています。



足の裏がひやりと冷たく気持ちよい竹渡り



「食べてもいいですか?」「まだでーす」

松戸市の取り組みは都市部の森で利活用が進むと同時に森を保全していこうとする活動の端緒に過ぎません。松戸里やまボランティアは森の保全の方向性をにらみながら併走していくと考えています。

「松戸里やま応援団」のHP内「里やま応援団紹介」掲載の緑ネット通信でご覧いただけます。加えて、ちば里山センターのお知らせ欄で「緑ネット通信」の過去のバックナンバーがご覧いただけます。「フォレスト・マネジメントの仕組みづくり」(緑ネット通信No.85-2024.9.15)、「さようなら秋山の森」、「ぷらっと子どもの森はじめました」(同No.81-2023.10.1)が参考になります。

CSIちば里山イニシアチフ

去る2月23日(祝)、八千代市にある「むつみの森」でCSI(ちば里山イノベーションハブ)の構成7団体による情報交換会が盛大に開かれました。野外における初めての試みは、各団体からの参加者3~5名に加え、参加者の子どもたちや場所を提供してくれた「里山むつみ隊」からも会員の皆さんが応援にかけつけてくれ、参加した約50名が準備された各団体の活動の一端を実際に体験することで、おおいに盛り上がりました。主な内容は、



佐藤理事長

焚火、薪割り、空中ブランコ、木育あそ

び、非常時のケーキ作り、森林観察等のほか、非常時でも作れる美味しいおにぎりや五平餅が昼食として用意されました。「ちば里山センター」からは赤松理事によるチェーンソーを使った大スギの伐倒が披露され、大木が倒れる迫力には参加者から驚きの声があがりました。今回の試みはCSIに所属する各団体の連携を強めるため、お互いをより知ることが重要であるとの主旨で行われましたが、それぞれの持ち味を理解することができ、今後の協役に役立つものとなったと思います。



囲炉裏で五平餅を焼く

<< 参加団体 >>

- ・ちば里山センター
- ・千葉県森林インストラクター協会
- ・樹の生命を守る会
- ・千葉県自然観察指導員協議会
- ・千葉県冒険遊び場ネットワーク
- ・千葉県木育コーディネーター協会
- ・千葉県緑化推進委員会



木育遊び

令和8年度 里山活動団体支援金事業7団体に決定

令和8年度の里山活動団体支援金については、3月19日の理事会で以下の7団体に決定しました。

1. 袖ヶ浦薪倶楽部
2. 里山・竹の会
3. NPO法人亀成川を愛する会
4. 鴨川里山を守る会
5. NPO法人竹研究会
6. 松戸里やま応援団
- 三樹の会
7. SaToYaMa よくし隊

4月1日から利用ができるよう、4月1日付けで採択通知を送付しますので、有効にお使いください。

この支援金は、ちば里山センターの自前財源を原資とした正会員対象の非常に使い易い制度で、手続きも簡便です。まだ支援金を受けていない団体はぜひ来年度以降に手を挙げてください。詳しくは事務局におたずねください。

なお、1団体については、活動内容が広く県民を対象とした里山体験や里山の役割等について理解を深める活動であることから、公益社団法人千葉県緑化推進委員会が事業主体の「森とみどりに親しむ活動支援事業」にシフトさせていただきました。

森とみどりに親しむ活動支援事業については、里山むつみ隊、松戸里やま応援団、樹人の会の2団体を申請団体に決定しましたが、もう1団体の枠があるので再募集します。奮って応募してください。

里山じまん ②⑥

やまのね

『やまのね』という名前には、山の根っこ、山の音、そして「あのね、山のね…」と話したくなる気持ちを含めています。フィールドは山武市内の



森ご飯

1.3haの手の入らなくなった杉林をお借りしました。当初、台風で多くの杉が折れ、重くなった倒木の山に呆然としましたが、多面的機能交付金が使えたことと、「自分達のフィールドがある」という嬉しさで、少しずつ整備を進めました。主な活動は倒木を薪にしたり、煮炊きしたり、小屋を作ったり、苗木を育てたり、草刈りしたり、そしてまた煮炊きしたり、です。杉の枝が大量に落ちているので焚き木には困りません。



倒木の薪棚

整備を始めて8年、倒木が片付いてくると、それまで見なかった動物や、様々な野草(食べられる!)や木々が現れ、訪れるたびに発見があります。2年前からは耕作放棄地もお借りし、畑も始めました。森もそうですが、やはり食につながると俄然やる気が出ます。



丸太で道普請

ゆるく活動しつつも、チェーンソーや刈払い機も使うので安全にも気をつけています。無理なく楽しく続けた先に、居心地のよい森ができるのが目標です。数名で活動していますが、新メンバーも募集中! 森で散歩しながら枝を拾うだけでも立派な森林整備になります。

やまのね 松浦 裕子



ちば里山センターでは、里山整備を通じて環境問題や、地域の課題、子どもの教育に取り組んでいる団体を支援しながらSDGsで県民に親しまれる豊かな森づくりに取り組んでいます。

～ちばSDGsパートナー2386号～



つれづれごと

新年度を迎えて、里山も春の花にあふれ◆生き物の活動も多くなって来ていると思います◆里山の水路を整備することは大変ですが◆整備することにより、水生生物が増えてトンボが舞い、ホタルの光が点滅する里山に生まれ変わってほしいです。

里山の風にゆられて ③③



オオアラセイトウ<大紫羅欄花>アブラナ科

中国原産で、シヨカツサイ(諸葛菜)とも呼ばれ、諸葛孔明が戦地で食料として広めたという伝説があり、「知恵の泉」「優秀」などの花言葉を持っています。

春に薄紫色の花を咲かせて、辺り一面に群生します。

写真・文 赤松義雄 R8.3.18 袖ヶ浦市神納

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日9:00~17:00)

E-mail info@chiba-satoyama.net ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>